

いて全例 systemic chemotherapy を行っている。又、WHO の staging 分類と治療法について試案をもって行っている。即ち、Stage Ia, IIa に対しては、準切除術後、術後照射を行い Stage Ib, IIb, IIIa については、術前照射後に準切除術を行っている。一方、Stage IIIb, c, IVa, IVb (G₁, G₂) については、切断術の適応と考えている。

37. 最近10年間の転移性骨腫瘍の検討

○小林健一, 篠原寛休, 藤塚 光慶
住吉徹是, 永瀬譲史, 佐久間 博
(松戸市立)

過去10年間、当院整形外科にて入院治療を行なった転移性骨腫瘍患者43例について調査した。内訳は男20例、女23例で脊椎転移が40例と大部分を占めていた。原発巣の判明した症例は34例で、胃癌、乳癌、肺癌、腎癌が上位であった。骨転移より1年以上生存した症例は17例(40%)で、骨転移後も進行の緩徐な癌は治療法の選択により、一時的にせよ退院が可能となることより、今後とも症例を選んで積極的に治療にとりくみたい。

38. 鹿島労災病院開設以後の現況

○黒田重史, 坂巻 皓, 渡部恒夫
雄賀多聡, 松岡 明
(鹿島労災)

鹿島労災病院開院より昭和56年11月30日までの6カ月弱で外来患者総数は1458名、入院患者総数は119名である。手術件数は100例で、このうち Spine Surgery は15例である。その他肩関節腱板修復術5例、足関節靭帯修復術7例が他に比べると多いのが特徴的である。造影検査は80例でこのうち22例が肩関節造影である。興味ある症例として骨折に合併した脂肪塞栓症、Myodil による胸髄部の Olema、及び Redundant Nerve Root を供覧した。

39. 千葉リハビリテーションセンターにおける診療の現況

○村田忠雄, 上原 朗, 山中 力
石田三郎, 東山義龍, 野平勲一
中村 勉 (千葉リハセンター)

昭和56年4月にオープンした千葉県千葉リハビリテーションセンターは、肢体不自由児施設(愛育園)、肢体不自由者更生施設(第一更生園)、内部障害者更生施設(第

二更生園)から構成されている。診療は診療部、訓練治療部、検査部、看護部、薬剤室に分かれて業務が行われ、診療局が統括している。昭和56年10月31日現在入園している障害児は66名、障害者は54名であるが、今回開設以来の診療の状況を報告した。

40. 国療千葉東脊椎脊髄センターの現況

○大塚 嘉則, 三枝 修, 南 昌平
磯辺啓二郎
(国療千葉東脊椎脊髄センター)

国療千葉東病院に整形外科的脊椎、脊髄疾患を専門に扱う部門が作られたのは昭和54年7月である。同年11月の外来診療開始後の側彎症を中心とした外来患者数は56年11月末までに延1,887名に達した。昭和56年2月の病棟開棟以来11月末までの入院患者は59名で19歳以下の小児脊椎、脊髄疾患は51名を占める。手術は38件で17件の Harrington 手術をはじめ脊椎手術は27件を占める。千葉大学附属病院整形外科へは7名の入院患者が転院し、逆に大学からは5名が転院してきた。手術等に際し大学から支援を受けた医師の数は延73名におよぶが、同期間の当科スタッフ3名が、大学外来診療、手術等に加わった延数は約100名にあたる。当科の患者数は側彎症学校検診の普及とともに月ごとに増加しており、今後とも大学病院と密接なつながりを保ちながら、大いに発展することが期待される。

41. 15歳男子にみられた肘内障の1例

○望月 真人, 守屋秀繁, 三枝 修
亀ヶ谷真琴 (千大)

最近我々は、15歳男子の肘内障を観血的に治癒せしめた1例を経験した。単純X線所見で、上腕橈骨関節腔の開大。メトリザマイドによる関節造影にて比較的著明な嵌入物陰影が認められた。治療は、徒手整復を試みるも困難であり、観血的整復術を施行した。手術所見にて嵌入物は輪状靭帯であることを確認、また輪状靭帯には断裂は認められなかった。本邦報告例は少数であるが、本症例と比較すると、いくつか異なる所見があるので若干の考察を加え報告する。